

北シベリヤに風荒れて

作詞：吉市茂三(大中2回卒)

1. 北シベリヤに 風荒れて

なんめい おど
南冥の波 躍るとき

南冥：南の方にある大海

健児七百(一千) 安勝に

基定めて 幾星霜

基：土台、基礎、根本、根拠

2. 夫れザクセン 林中に

ドイツの国の 力あり

ザクセン：東部ドイツの州、鉱物資源が豊かで
工業が盛んであった

※西方ザクセン、東方の安陵を対比させている
とのこと(石田氏)

名も安らけき 安勝の

さんか
山下に我等の 力あり

3. 世に謳われし 浩然の

しょうき こも
正気は籠りて 奮い起つ

謳う：大勢で声を合わせてうたう

浩然：心がひろくゆったりしているようす

浩然の気：天地に恥じない剛健の精神

正気：天地に本来存在すると考えられる物事の
根本となる力

見よや七百(一千) 健児らが

さんか
眉はあがりぬ 血は湧きぬ

眉はあがりぬ：眉をつりあげること、怒ったさま
興奮するさま

※元歌は伊集院町の妙円寺詣りの歌。島津義弘の関が原の敵陣突破を称える
「明くれと閉ざす雲暗く」である。

※また数え歌の作者、石田揆(はかる)氏(大中9回卒)から、吉見憲治氏(大高
2回卒)へ2番を含め、正しい歌詞が示された。

2番は終戦後占領下では歌われなかった。

